

第 150 回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成 29 年 12 月

日 時: 2017 年 12 月 21 日(木) 16:00-17:30

場 所: 神奈川大学

1 号館 804 号室

◆ 主 催: 防災塾・だるま

司会: 山田美智子

記 録: 中島光明

◆ 談義の会参加者: 会員 21 名、一般 9 名(含む講師、大学生 6 名)、

計 30 名 (敬称略)



話題: 『防災・減災の課題を考えよう』
～基礎自治体が抱える災害対応上の課題と
皆さんに期待される 自助・共助～
講師: 飯塚 智規 氏
(一般財団法人 消防防災科学センター研究員
政治学博士)

講師の飯塚氏

荏本先生の挨拶と
司会の山田さん



防災行政・復興行政のプロの視点から、地方自治体(行政)が直面している災害対応上の課題について、事例を挙げ鋭い切り口で解説。そして、これらの課題の本質を指摘し「何をなすべきか」と「市民に期待される自助・共助」についての提言。

ポイント1:「市町村は災害対応に失敗する！」

- ◇2017 年 7 月九州北部豪雨(朝倉市)
市職員と他機関の効果的な連携体制が構築されず
- ◇2016 年熊本地震
職員が物資取扱に負われ、災害対策本部に不在
- ◇2016 年 8 月台風 10 号災害(岩泉町)
職員が電話対応に負われ、避難情報が共有されず
- ◇2015 年 9 月関東・東北豪雨
住民への避難勧告メールが配信されず

<失敗が繰り返される理由>

- ・首長の災害に対する組織対応力の過信
- ・防災担当者は災害対応のスペシャリストではない
- ・防災担当者に求められるのは決断力との過信

<失敗を防ぐには> (自治体職員への啓発)

- ・図上訓練やワークショップの研修の実施

ポイント3:「我々はガバナンスを目指さなければならない」

- ・ガバナンス=行政と地域住民などによる「協働での社会の統治」

◆ガバナンスの現実(誤った災害対策)

一方的なコミュニケーション(住民と行政のコミュニケーションの欠如): 衝突が起こり信頼関係が生まれにくい。

◆ガバナンスの理想(適切な災害対応)

「自助・共助のための支援・働きかけ」と「公助への参加」: 「できない」「やれない」ではなく、「では、どうすれば良いか」を応答するのが大事で、コミュニケーションの円滑化が信頼関係を生む。

◆コミュニケーションには信頼関係が必要不可欠

- ①自分たちも努力しているという自己PR
- ②お互いが何を目標として自助・共助・公助を行うべきか?
- ③できないものはできない。お互いができることを検討する。

ポイント2:「地域防災は自助 7 割・共助 2 割・公助 1 割ではない」

- ・阪神淡路大震災では、倒壊した建物から救出された人の約 8 割が住民によって救出。
- ・震災発生から約 40 日後、公的避難所で生活していた人々は 1 割前後に過ぎない。
- ・被害者を助けるのも被災後の生活も、ほとんど自助・共助によるもの。
- ・だから自助・共助を推進することは、地域防災力を向上させるために重要!

- ・自分も、地域も、自治体も、それぞれが災害時の役割を理解し、その役割を 100%果たすよう取り組むこと。
- ・住家の被害認定調査が遅れ、罹災証明の発行が進まないと被災者の生活再建や街の復旧・復興が始まらない!



講演会場の模様

<まとめ>

- ① 行政は万能ではない! 過信は禁物!
- ② お互いが自分の役割を理解し 100%の取組みを行わないと復興できない!
- ③ 地域住民と地域行政との間でのコミュニケーションが地域防災の向上に寄与する。

●次回(第 151 回)案内

- ・日時: 2018 年 1 月 25 日(木) 18 時~19 時 30 分
- ・会場: 神奈川大学 1 号館 804 号室
- ・テーマ: 「災害と公衆衛生」 大久保一郎氏(横浜市健康福祉局 衛生研究所所長)